

1

NEC Express5800シリーズ

導入編

本製品や添付のソフトウェアの特長、導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順を説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

知っておきたいこと (2ページ)

本製品の特長や添付（または別売品）のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。

導入にあたって (8ページ)

本製品をご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。

お客様登録 (13ページ)

お客様登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひ登録してください。

セットアップ (14ページ)

本製品をお使いになれるまでに必要な手順について順を追って説明しています。

再セットアップ (40ページ)

ハードディスクドライブからオペレーティングシステムを起動できなくなった場合にハードディスクドライブの内容を出荷時の状態に戻してから再セットアップする方法について説明しています。

応用セットアップ (41ページ)

特殊なセットアップの方法について説明しています。

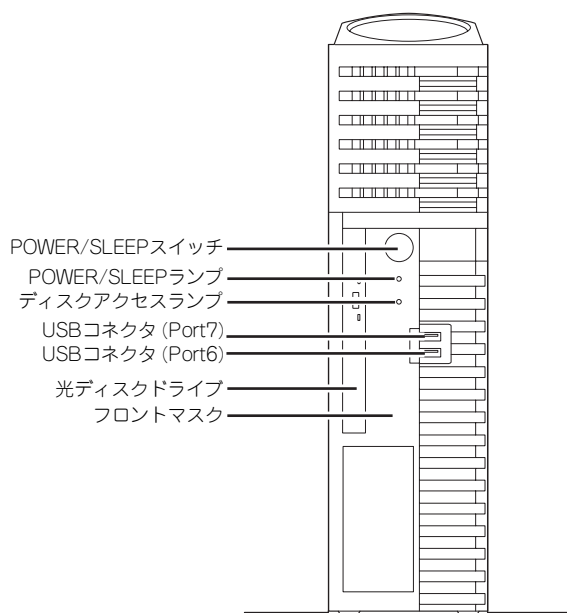
知っておきたいこと

本装置について知っておいていただきたいことがらを記載しています。導入の前にご覧ください。

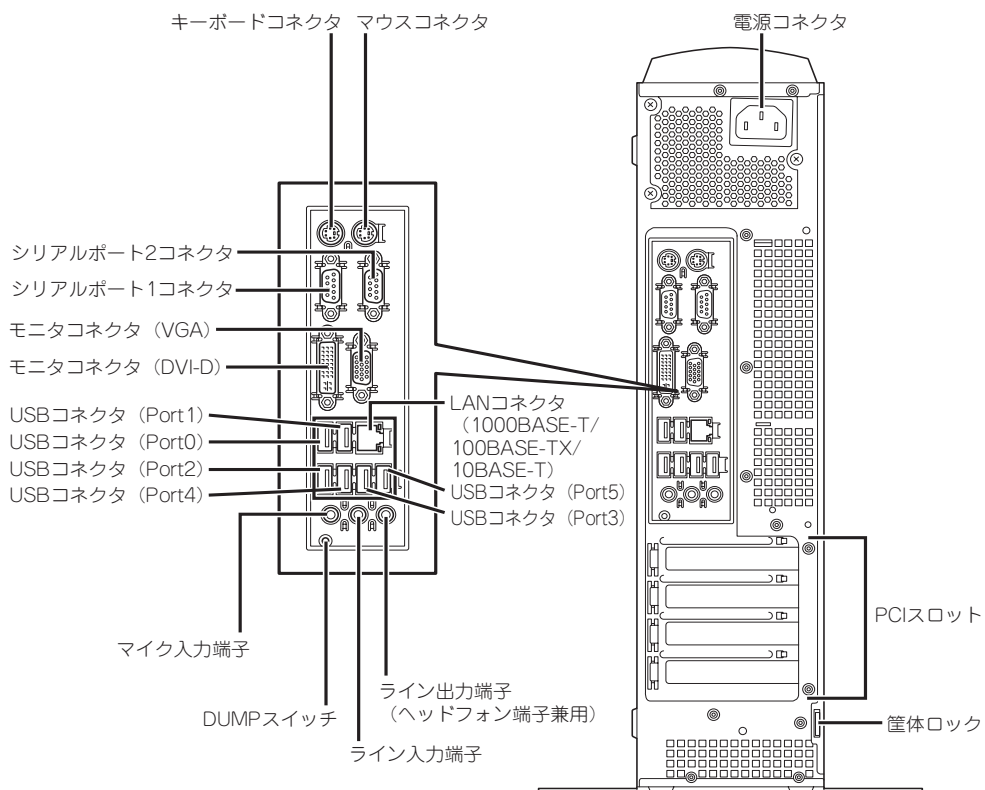
装置外観

導入の際に知っておいていただきたい各部の名称と場所を次に示します。増設や運用時に知っておいていただきたい各部の名称や機能については「ハードウェア編」をご覧ください。

<装置前面>



<装置背面>



特 長

お買い求めになられた本製品の特長を次に示します。

高 性能

- Intel® Core™ i5 Processor/Intel® Core™ i3 Processor/
Intel® Pentium® Processor搭載
- 高速1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T
インタフェース (1Gbps/100Mbps/10Mbps対応)
- SATA300対応高速ディスクアクセスをサポート
した内蔵ハードディスクドライブ

高 信頼性

- 温度検知
- パスワード機能
- 内蔵ファン回転監視機能
- 電圧監視機能
- RAIDシステム(ディスクアレイ) SATA
- メモリ監視機能 (1ビットエラー
訂正/2ビットエラー検出)

保 守機能

- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能
- 保守ツール

豊 富な機能搭載

- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子(ライン入力端子/ライン出力端子(ヘッド
フォン端子兼用)/マイク入力端子/ヘッドフォン端子)搭載
- El Torito Bootable CD-ROM(no emulation
mode)フォーマットをサポート
- リモートパワーオン機能
- ACリンク機能
- SATA300 (内蔵ハードディスクドライブ用)
対応
- 光ディスクドライブは購入時に選択可能な
フリーセレクションタイプ

省 電力機能

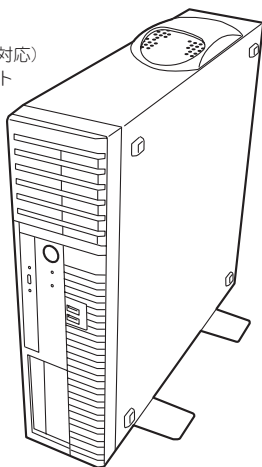
多彩なスリープ機能をサポート (オプション
ボードによっては機能しないものもある)

管 理機能

- ESMPROプロダクト
- ExpressUpdate機能

自 己診断機能

- Power On Self-Test (POST)
- テスト診断 (TeDoLi)



す ぐに使える

BTO(工場組み込み出荷)によりあらかじめ使用するOSの
インストールやオプションの取り付けを指定できます。

便 利なセットアップ ユーティリティ

- EXPRESSBUILDER (システムセットアップユーティリティ)
- SETUP (BIOSセットアップユーティリティ)

拡 張性

- PCIバス X4スロット
 - ・ PCI Express(x16) X1スロット(PCI#1)
 - ・ PCI Express(x4) X2スロット(PCI#2)
 - ・ PCI Express(x1) X1スロット(PCI#3)
 - ・ PCI 32bit/33MHz/5Vインタフェース X1スロット(PCI#4)
- 最大16GBのメモリ(DIMMx4スロット)*1
- USB2.0対応

*1 32bit OSを使用時は2GB~3GB程度しか認識されません。

本体管理

本製品のハードウェアコンポーネントで実現している運用管理機能/信頼性機能を提供します。また、EXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ServerAgent」により、システムの状態を統合的に管理することができます。本体の状態は、同じくEXPRESSBUILDERに収録されている「ESMPRO/ServerManager」がインストールされたネットワーク上の管理コンピュータからチェックすることができます。

本装置での機能の使用可否は下記の表のとおりです。

機能名	可否	機能概要
ハードウェア	○	ハードウェアの物理的な情報を表示する機能です。
メモリバンク	○	メモリの物理的な情報を表示する機能です。
装置情報	○	装置固有の情報を表示する機能です。
CPU	○	CPUの物理的な情報を表示する機能です。
システム	○	CPUの論理情報参照や負荷率の監視をする機能です。 メモリの論理情報参照や状態監視をする機能です。
I/O デバイス	○	I/O デバイス（シリアルポート、キーボード、マウス、ビデオ）の情報参照をする機能です。
システム環境	△	温度、ファン、電圧、電源、ドアなどを監視する機能です。
温度	○	筐体内部の温度を監視する機能です。
ファン	○	ファンを監視する機能です。
電圧	○	筐体内部の電圧を監視する機能です。
電源	X	電源ユニットを監視する機能です。
ドア	X	Chassis Intrusion（筐体のカバー / ドアの開閉）を監視する機能です。
ソフトウェア	○	サービス、ドライバ、OS の情報を参照する機能です。
ネットワーク	○	ネットワーク（LAN）に関する情報参照やパケット監視をする機能です。
拡張バスデバイス	X	拡張バスデバイスの情報を参照する機能です。
BIOS	○	BIOSの情報を参照する機能です。
ローカルポーリング	○	エージェントが取得する任意のMIB 項目の値を監視する機能です。
ストレージ	○	ハードディスクドライブなどのストレージデバイスやコントローラを監視する機能です。
ファイルシステム	○	ファイルシステム構成の参照や使用率監視をする機能です。
RAID システム / ディスクアレイ	○	下記RAID コントローラを監視する機能です。 ● オンボードのRAIDコントローラ (LSI Embedded MegaRAID™)
その他 *	X	Watch Dog Timer による OS ストール監視をする機能です。
	X	OS STOP エラー発生後の通報処理を行う機能です。

○: サポート △: 一部サポート X: 未サポート

* ESMPRO/ServerManagerの画面には表示されない機能です。



ESMPRO/ServerManager と ESMPRO/ServerAgent は、本体に標準添付されています。各ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。

ストレージ管理

大容量のストレージデバイスを管理するために次の点について留意しておきましょう。

- 内蔵のハードディスクドライブとDATなどのバックアップ装置機能を提供します。
テープ装置へのデータのバックアップはWindows XP標準のバックアップアプリケーションの他にARCserve、BackupEXEC、NetBackupなどによるバックアップも可能です。なお、バックアップ装置は別売のオプションです。
- オンボードのRAIDコントローラと内蔵のハードディスクドライブによるディスク管理機能を提供します。

ハードディスクドライブの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながるといえます。オンボードのRAIDコントローラを使用することにより、ハードディスクドライブをグループ化して冗長性を持たせることでデータの損失を防ぐとともにハードディスクドライブの稼働率を向上することができます。

本体のマザーボードには、シリアルATA(SATA)ハードディスクドライブを接続することができるチャンネルを標準で持っています。また、このチャンネルを制御するRAIDコントローラによってRAIDシステムを構築することができます。RAIDコントローラがサポートしているRAIDレベルはRAID0とRAID1です。

RAIDコントローラの制御や各種設定はRAIDコントローラに搭載されているコンフィグレーションユーティリティ「LSI Software RAID Configuration Utility」を使用します。詳しくは「ハードウェア編」を参照してください。

運用中の管理・保守は「Universal RAID Utility」を使用します。使用方法については「ソフトウェア編」、またはオンラインドキュメントを参照してください。

RAIDシステム管理ユーティリティは、ハードディスクドライブの障害に対して迅速に対処するためにESMPRO/ServerManagerやESMPRO/ServerAgentと連携し、RAIDシステムの状態をトータルに監視します。



Universal RAID Utility、ESMPRO/ServerManager、ESMPRO/ServerAgentは、本体に標準で添付しています。ソフトウェアのインストール方法や使用方法は、各ソフトウェアの説明を参照してください。



本体装置のオンボードのRAIDコントローラ(LSI Embedded MegaRAID™)は休止状態やスタンバイをサポートしていません。休止状態、スタンバイへの移行は行わないでください。

電源管理

商用電源のトラブルは、システムを停止させる大きな原因のひとつです。

停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因となる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始めると、自動的にバッテリーから電源を供給し、システムの停止を防ぎます。システム管理者は、その間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。さらに電圧や電流の変動を抑え、電源ユニットの寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケジュールなどによる本装置の自動・無人運転を実現することもできます。

ネットワーク管理

クライアント/サーバシステムを構築した場合にネットワーク構成機器(サーバ/ワークステーション、ルータ、ハブなど)を監視し障害や過負荷状態を検出することができます。なお、ルータやハブの監視にはESMPRO/Netvisorなどの関連製品が必要です。

ファームウェアおよびソフトウェアのバージョン管理

ESMPRO/ServerManager、ExpressUpdate Agentを使用することにより、管理対象サーバのファームウェアやソフトウェアなどのモジュールのバージョンを管理し、更新パッケージを使用して更新を行う機能です。

ESMPRO/ServerManagerから更新パッケージの適用を指示するだけで、複数のモジュールに対し、システムを停止せずに自動で更新を行います。

導入にあたって

本装置を導入するにあたって重要なポイントについて説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムに本製品を導入するにあたり、次の点について留意してください。

まずはじめに本体、および添付品がすべてそろっていることを確認してください（添付の構成表を参照してください）。万一、足りないものや破損しているものがあったときはお買い求めの販売店または保守サービス会社に連絡してください。また、システムを構築するために必要となる機器についても確認しましょう。

日常での運用において、本体の状態を管理・監視できるようなシステムを構築しておくことが望まれます。

添付の「EXPRESSBUILDER®」DVDには、本体、およびExpress5800シリーズ製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリケーション「ESMPRO®」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

なお、本体に障害が発生した際に、NECフィールディング（株）がアラート通報を受信して保守を行う「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス（HTTPS）」を利用すれば、低コストでExpress5800シリーズの障害監視・保守を行うことができます。

「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス（HTTPS）」を利用することもご検討ください。

システムの構築・運用にあたっての留意点

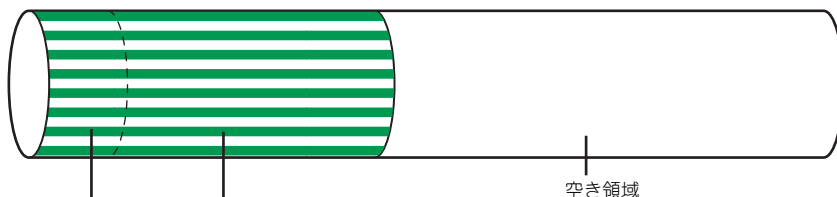
システムを構築・運用する前に、次の点について確認してください。

出荷時の状態を確認しましょう

本製品を導入する前に、出荷時の状態を確認してください。

- パーティション構成について

<Windows 7 Professionalの場合>



Windows パーティション
100MBのブートパーティションを含む*
カスタムインストールの場合は、お客様のオーダーによって異なります。

*お客様がオーダーしたハードディスクドライブのパーティションサイズに含まれます。

ブートパーティション(100MB)
オペレーティングシステムからは、ブートパーティションは認識されません。

電源を入れる前に

本体をセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

① ハードウェアのセットアップ

本体を箱から取り出し、最適な場所に設置後、キーボード、マウス、ディスプレイ装置のケーブル、電源コードの順で本体背面のコネクタに接続します。



オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。ただし、メモリは取り付けることをお勧めします。

② オペレーティングシステムのセットアップ

購入された本体には、すでに次のOSがインストールされています。

- Windows 7 Professional 32-bit(x86) Edition 日本語版



以下のOSはサポートしていません。

- Windows Vista Business 32-bit(x86) Edition
- Windows Vista Business 64-bit(x64) Edition
- Windows XP Professional x64 Edition

そのまま電源をONにすればユーザー固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっています。詳しい手順は17ページで説明しています。

システムを再セットアップする場合は、再セットアップ（40ページ）を参照してください。オペレーティングシステムのセットアップが完了するまでは、内蔵オプションの取り付けや周辺機器の接続をしないでください。これらの作業は、オペレーティングシステムのセットアップが完了してから行います。ただし、メモリは取り付けることをお勧めします。



OEM-Diskを使用するセットアップを行う場合は、フロッピーディスクなどのリムーバブルメディアをご準備ください。なお、フロッピーディスクをご使用の際は、1.44MB フォーマット済みの空きフロッピーディスクをご用意ください。

③ 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入されたメモリやハードディスクドライブなどの内蔵デバイスを取り付け、プリンタなどの周辺機器を接続します。接続する周辺機器用のデバイスドライバをインストールする場合は、周辺機器に添付の説明書を参照してインストールしてください。

④ 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたときにすぐに原因の見極めや解決ができるよう障害処理のためのセットアップをしてください。Windows 7 / Windows XPに関しては、「障害処理のためのセットアップ」(25ページ)で説明しています。



弊社では、ESMPROの他にも「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS)」と呼ばれるExpress5800製品の状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品に障害が起きたときに自動的に保守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知または保守員の派遣などのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス (HTTPS) をご契約することをお勧めします。

⑤ 管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストールします (ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」DVDからインストールすることができます)。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください (インストールについては「ソフトウェア編」で説明しています)。ESMPRO/ServerManagerは本体にインストールして使用することもできます。



添付のDVD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのアプリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたアプリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店または保守サービス会社にお問い合わせください。

⑥ システム情報のバックアップ

ハードウェアとソフトウェアのすべてのセットアップを完了したら、添付の「EXPRESSBUILDER」DVDのユーティリティを使用して本体装置のシステム情報のバックアップをとることをお勧めします。

本体装置の故障による部品交換や修理の後にバックアップしていたシステム情報をリストアップすることで故障前と同じ状態で本製品を使用することができます。

システム情報のバックアップは、添付の「EXPRESSBUILDER」DVDのユーティリティを使用して行なえます。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらかじめ確認しておくことをお勧めします (後から変更することもできます)。

ネットワークを経由して、他のシステムからの指示により本体の電源を投入 (リモートパワーオン) する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Advanced Chipset Control」で「Wake On LAN/PME」を「Enabled」に設定します。

UPS接続時のポイント

本体の電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、UPSから本体の電源を制御できる電源連動（ACリンク）機能を使用することができます。

このACリンク機能を使用して本体の電源ON/OFFを行う場合は、BIOSセットアップユーティリティの「System Hardware」メニューの「AC-LINK」を「Power On」に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフトウェアの設定が必要です。

ストレージ機能構築のポイント

- RAIDコントローラを使用する場合

Universal RAID Utilityをインストールしておく必要があります。「ソフトウェア編」の「Universal RAID Utility」の説明に従ってUniversal RAID Utilityをインストールしてください。

RAIDシステムを構築する際は、ディスク稼働率や予防保守性を高めるためにも、論理ドライブの整合性チェックを定期的に行うことをお勧めします（オンラインドキュメント「Universal RAID Utility Ver2.1 ユーザーズガイド」の整合性チェックに関する説明を参照してください）。

- バックアップファイルシステムを使用する場合

本装置では、別売のSCSIコントローラを搭載することによりバックアップ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。

主なバックアップツールは次のとおりです。

- － Windows XPバックアップツール
- － ARCserve（コンピュータ・アソシエイツ社）
- － BackupExec（シマンテック社）
- － NetBackup（シマンテック社）

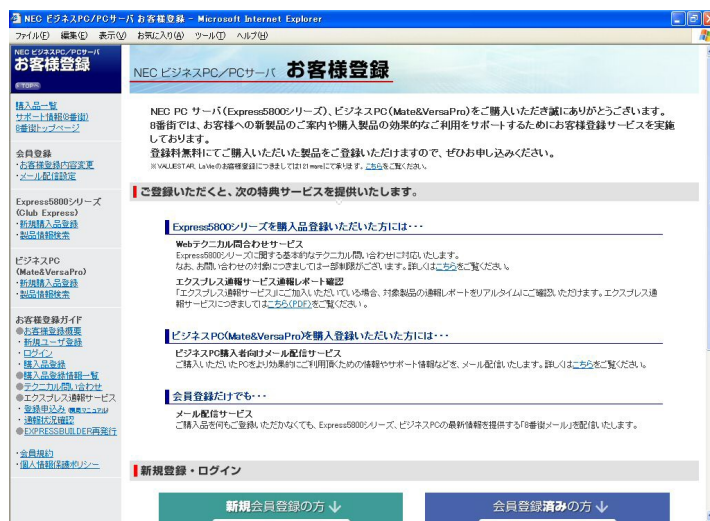
DAT装置などのテープデバイスは、ヘッドの汚れによりデータの読み書きが正常に行われず、バックアップ/リストア中にエラーが発生する場合があります。クリーニングテープにより、定期的にヘッドを清掃するように心がけてください。

お客様登録

弊社では、製品ご購入のお客様に「Club Express会員」への登録をご案内しております。添付の「お客様登録申込書」に必要事項をご記入の上、エクスプレス受付センターまでご返送いただくか、またはClub Expressのインターネットホームページ

<http://club.express.nec.co.jp/>

にてご登録ください。



「Club Express会員」のみならずには、ご希望によりExpress5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスを、無料で提供させていただきます。サービスの詳細はClub Expressのインターネットホームページにて紹介しております。ぜひ、ご覧ください。

セットアップ

箱を開けてからお使いになれるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際は、「再セットアップ（40ページ）」を参照してください。



本装置にWindowsのプロダクトキーが記載されたIDラベルが貼りつけられています。



プロダクトキーはOSのセットアップや再インストール時に必要な情報です。剥がれたり汚れたりしないよう取り扱いにご注意ください。もし剥がれて紛失したり汚れて見えなくなった場合でも、ラベルの再発行はできませんので、あらかじめプロダクトキーをメモし、他の添付品と一緒にメモを保管されることをお勧めします。

1 EXPRESSBUILDERがサポートしているサービスパック

本体に添付の「EXPRESSBUILDER」DVDでは、以下のOSインストールメディア及びサービスパックの組み合わせをサポートしています。

- Windows 7 Professional
 - ー OSインストールメディア（Service Pack 無し）
- Windows XP Professional
 - ー OSインストールメディア（Service Pack 3 内包版）

2 EXPRESSBUILDERがサポートしているオプションボード

添付の「EXPRESSBUILDER」DVDでサポートしているオプションボードは、以下になります。もし、下記以外のオプションボードを接続するときは、オプションボード添付のマニュアルと「応用セットアップ」(41ページ)を参照してセットアップしてください。

- EXPRESSBUILDERにてOSのインストールをサポートしているRAIDコントローラ
 - － オンボードのRAIDコントローラ(LSI Embedded MegaRAID™)

3 ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。



内蔵デバイスは、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

1. 本体に、最も適した場所に設置する（→54ページ）。
2. ディスプレイ装置やマウス、キーボードのケーブルを本体に接続する（→59ページ）。



プリンタなどの周辺機器は、オペレーティングシステムのセットアップを完了してから取り付けてください。

3. 添付の電源コードを本体と電源コンセントに接続する（→62ページ）。
4. ハードウェアの構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

100ページを参照してください。



BIOSのパラメータで時刻や日付の設定と確認をしてください（本装置では使用するOSを選択するようなBIOSパラメータ値はありません。プラグ・アンド・プレイのサポート有無に関する設定は特に必要ありません）。

引き続き、オペレーティングシステムのセットアップへ進んでください。

4 オペレーティングシステムのセットアップ

電源をONにして、お使いになれる状態になるまでを順を追って説明します。

セットアップの手順

初めて電源をONにしてセットアップするときは、次の手順でシステムを起動して、セットアップを始めます。

Windows 7 Professionalの場合

Windows 7 Professionalがハードディスクドライブにインストール済みのモデルでは、次の手順に従ってセットアップをしてください。



セットアップを完了するまでは、キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外のデバイスを接続しないでください。

1. リムーバブルメディアと光ディスクドライブにディスクがセットされていないことを確認する。
2. 本体の電源をONにする。

本体は自動的にPOSTを開始し、しばらくすると「Windowsのセットアップ」画面が表示されます。

以降、画面の指示に従って必要な設定や表示内容をよく確認し、セットアップを進めてください。



- 「Windowsのセットアップ」の最初の画面では、国または地域、時刻と通貨の形式、キーボードレイアウトの設定を選択します。
- 「アカウントのユーザ名を選択します。コンピュータの名前は、組織のシステム管理者によって管理されます。」と表示される画面では、ユーザ名を入力します。
- 「ユーザーアカウントのパスワードを設定します。」と表示される画面ではユーザーアカウントのパスワードを入力します。



Windows 7でパスワードを設定する際はパスワードのヒントの入力が必須です。
パスワードのヒントを入力しない場合、次に進むことができません。

- － [ライセンス条項をお読みになってください] と表示される画面では、マイクロソフトソフトウェアライセンス条項の内容を確認してください。
- － [コンピュータの保護とWindowsの機能の向上が自動的に行われるように設定して下さい] と表示される画面では、表示される内容を確認してください。
- － [日付と時刻の設定を確認します] と表示される画面では、日付と時刻を正しく設定します。

3. システムにログオンする。

以下のソフトウェアも併せてインストールされます。ソフトウェアのセットアップについては、「ソフトウェア編」または添付の「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されているオンラインドキュメントを参照してください。

- － ESMPro/ServerAgent
- － Universal RAID Utility
- － エクスプレス通報サービス
- － エクスプレス通報サービス (HTTPS)

以上でインストールは完了です。続いて「デバイスドライバ（標準装備）のセットアップ」に進んでください。

デバイスドライバ（本体標準装備）のセットアップ

オプションのデバイスドライバのインストールやセットアップについてはオプションに添付の説明書を参照してください。

Windows 7 Professionalの場合

● ディスクドライバ

標準装備のディスクドライバは、購入時にインストール済みです（システムの修復や再セットアップの際にも自動的にインストールされます）。

● PROSet

LANドライバとPROSetはシステムのアップデート時にすべて自動でインストールされます。



- ドライバおよびPROSetに関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限（Administrator等）でログインして実施してください。OSのリモートデスクトップ機能またはその他の遠隔操作ツールを使用しての作業はサポートしておりません。
- IPアドレスを設定する際、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてからIPアドレスの設定をしてください。
- 標準装備のネットワークアダプタとLANボードの設定を変更した場合、変更が反映され、通信可能となるまで90秒程度時間がかかる場合があります。

● LANドライブのセットアップ

ー リンク速度の設定

ネットワークアダプタの転送速度とデュプレックスモードを接続先スイッチングハブの設定値と同じ設定にする必要があります。

以下の手順を参照し、転送速度とデュプレックスモードを設定してください。

- (1) [デバイスマネージャ]を起動する。
- (2) [ネットワークアダプタ]を展開し、設定するネットワークアダプタをダブルクリックする。ネットワークアダプタのプロパティが表示されます。
- (3) [リンク速度]タブをクリックし、[速度とデュプレックス]をスイッチングハブの設定値と同じ値に設定する。
- (4) ネットワークアダプタのプロパティのダイアログボックスの[OK]をクリックする。
- (5) システムを再起動する。

以上で完了です。

ー WOLの設定

WOL(Wake On LAN) の機能を使用する場合は以下の手順を参照し、ネットワークアダプタの設定を行ってください。

- (1) デバイスマネージャを起動する。
- (2) [ネットワークアダプタ]を展開し、[Intel(R) 82578DM Gigabit Network Connection]のアダプタをダブルクリックする。ネットワークアダプタのプロパティが表示されます。
- (3) [電力の管理]タブを選択し、[Wake On LAN]内の設定項目を下記の表のWOL設定に設定変更する。

設定項目	WOL 設定
● "Wake On Magic Packet"	ON
● "電源オフ状態からのWake On Magic Packet"	ON
● "Wake On Link"	OFF
● "Wake On Pattern Match"	OFF



- [節電のオプション] 内の設定を変更する必要はありません。
- 上記の設定は手動で設定し直さない限り、保持されます。

- (4) ネットワークアダプタのプロパティの[OK]をクリックする。
- (5) すべてのウィンドウを閉じて、システムの再起動を行う。

以上で完了です。



サービスの追加にて、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。
[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム（またはパケット）を監視することができます。
ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、この後の「障害処理のためのセットアップ」を参照してください。

- チームのセットアップ

チームを作成、削除する場合は下記の手順を参照して行ってください。



- チームの機能、標準装備のネットワークアダプタとLANボードとのチームの組み合わせ、その他注意事項については、下記URLの[増設LANボード関連]をクリックして表示されるテクニカルガイドに記載していますので、必ず確認してください。

<http://support.express.nec.co.jp/pcserver/category/spec.html>

- 標準装備のネットワークアダプタとLANボードの設定を変更した場合、変更が反映され、通信可能となるまで90秒程度時間がかかる場合があります。

<チームのセットアップ手順>

1. チームを構成させるネットワークアダプタとスイッチングハブをLANケーブルで接続する。
2. [デバイスマネージャ]を起動する。
3. [ネットワークアダプタ]を展開し[Intel(R)~]をダブルクリックする。
4. [チーム化]のタグを選択し、[その他のアダプタとチーム化する]にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
5. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
6. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
7. チームタイプの選択で、設定するチームタイプを選択して[次へ]をクリックする。



対応しているチームタイプは以下のとおりです。

- アダプタ フォルトトレランス
- アダプティブ ロード バランシング
- 静的リンク アグリゲーション
- スイッチ フォルトトレランス

8. [完了]をクリックする。
チームのプロパティが表示されます。
9. チームのプロパティで「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。

10. チーム内のアダプタに対しプライマリ/セカンダリ設定を行う場合、以下の操作を行う。

- ー プライマリ設定
プライマリに設定するアダプタを選択し、「プライマリの設定」をクリックする。
- ー セカンダリ設定
セカンダリに設定するアダプタを選択し、「セカンダリの設定」をクリックする。

プライマリ/セカンダリ設定を完了した後、[OK]をクリックして画面を閉じてください。



プライマリ/セカンダリ設定は以下の手順で確認できます。

- 1) チームのアダプタのプロパティ内にある[設定]タブを表示する。
- 2) [チーム内のアダプタ]の各アダプタに表示されているプライマリ/セカンダリを確認する。

11. [設定]のタグのまま[スイッチのテスト]をクリック後、[スイッチのテスト]画面が表示されたら、[テストの実行]をクリックして実行する。実行した結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。



[テストの実行]を行う前に、[設定]タブにてアダプタのステータスが“有効”および“スタンバイ”であることを確認してからテストを実行してください。実行した結果、および、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。エラーが表示された場合、メッセージを参照し接続しているスイッチングハブの設定を変更してください。

12. システムを再起動する。

以上で完了です。

<チームの削除手順>

1. [デバイスマネージャ]を起動する。
2. [ネットワークアダプタ]を展開しチームのアダプタをダブルクリックする。
3. [設定]タブを選択して[チームの削除]をクリックする。
4. [チーム設定]のポップアップが表示されるので[はい]をクリックする。
5. デバイスマネージャのネットワークアダプタ配下に[チーム:チーム名]がないことを確認する。
6. システムを再起動する。

以上で完了です。



- アダプタフォルトトレランス(AFT)のチームとして指定するネットワークアダプタは、同一スイッチングハブ(L2)に接続されることを推奨します。異なるスイッチングハブ(L2)でも使用できますが、異なるスイッチングハブ(L2)に接続する場合は、すべて同一LAN（同一ネットワーク）上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。
- アダプティブロードバランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブ(L2)にのみ接続できます。
- マザーボードまたはLANボードを交換する場合は、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。

- LANボード(N8104-122/126)を追加接続する場合

LANボード(N8104-122/126)を追加接続する場合、OS のプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。

- グラフィックスアクセラレータドライバ（ディスプレイドライバ）

グラフィックスアクセラレータドライバは、購入時にインストール済みです。システムの修復や再セットアップを行なう場合、オンボードのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は、EXPRESSBUILDER から「システムのアップデート」を実行しドライバをインストールしてください。オプションのグラフィックスアクセラレータボードを使用する場合は、本体またはグラフィックスアクセラレータボードに添付の説明書とディスク(CD-ROM)を使用してドライバをインストールしてください。

- サウンドドライバ

標準装備のサウンドドライバは、購入時にインストール済みです（システムの修復や再セットアップの際は、EXPRESSBUILDERから「システムのアップデート」を実行しドライバをインストールしてください）。

システムのアップデート

システムは、購入時に自動的に最新の状態にアップデートされますが、次のような場合には必ずアップデートし直してください。

- システム構成を変更した場合（内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合）
- システムを修復した場合
- バックアップツールを使用してシステムをリストアした場合

アップデート手順

詳細なアップデート手順は、EXPRESSBUILDERに格納されている各OSのインストール・サプリメントガイドを参照してください。

5 内蔵デバイスの取り付け/周辺機器の接続

別途購入したオプションの内蔵デバイスを取り付けてください。取り付け手順については、ハードウェア編の「内蔵オプションの取り付け」を参照してください。
デバイスドライバ等のインストール手順については、オプションに添付の説明書などを参照してください。



ここで取り付けたデバイスのモデル名やタイプ、取り付け位置をメモしておいてください。オペレーティングシステムを再インストールする場合は、購入時の標準的なハードウェア構成に戻してから作業を始める必要があります。購入時のセットアップを完了した後に取り付けたデバイスは、取り外さなければいけません。

別売のネットワークケーブルで本装置をネットワークに接続してください。キーボードやマウス、ディスプレイ装置以外の外付けデバイスがある場合は、それらのデバイスも併せて接続してください。

本体のコネクタ位置についてはハードウェア編の「各部の名称と機能」を参照してください。

6 障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。



表示方法が以下のように設定されている時の手順を記載しています。

- [タスクバーと [スタート] メニューのプロパティ] の [[スタート] メニュー] タブで [[スタート] メニュー] が選択されている。
- フォルダーオプションで、[フォルダに共通の作業を表示する] が選択されている。

メモリダンプ（デバッグ情報）の設定

本体内のメモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。次の手順に従って設定します。



メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

Windows 7 Professionalの場合

1. スタートメニューから [コントロールパネル] をクリックする。
[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル] ウィンドウから [システムとセキュリティ] をクリックする。



[表示方法] が [カテゴリ] 以外の場合は、[コントロールパネル] から直接 [システム] をクリックしてください。

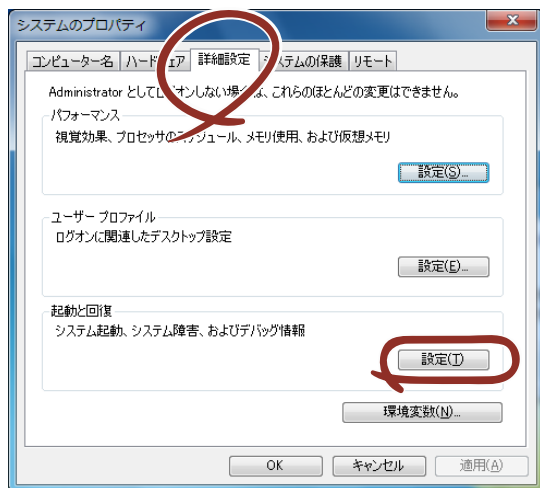
3. [システム] をクリックする。

4. [システムの詳細設定]をクリックする。

[システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



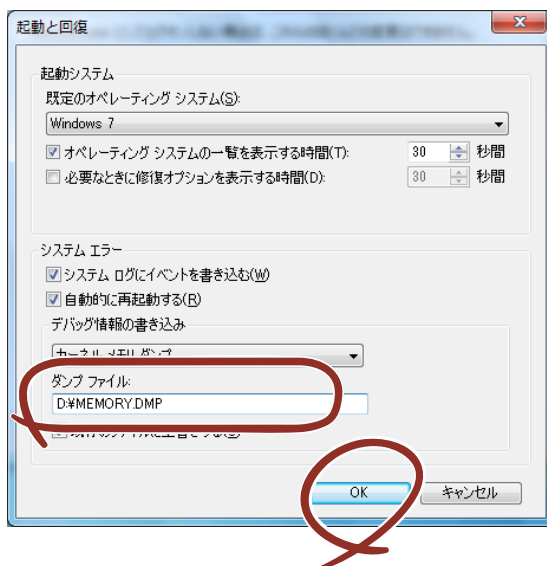
5. [起動と回復] ボックスの [設定] をクリックする。



6. ダンプファイルのテキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、
[OK] をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP





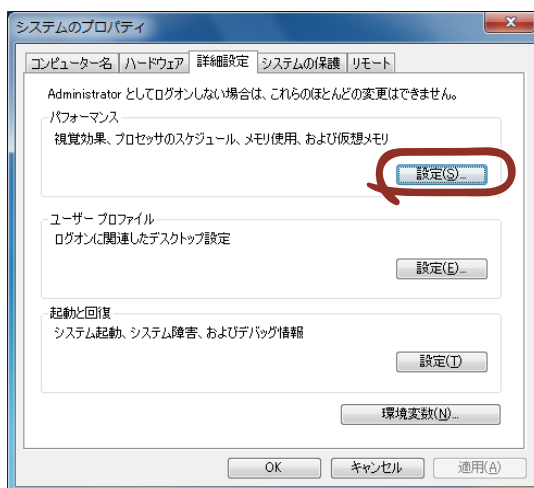
Windows 7 Professional 64-bit(x64) Edition の場合

- デバッグ情報の書き込みは【完全メモリダンプ】を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GB を超える場合は、【完全メモリダンプ】を指定することはできません（メニューに表示されません）。その場合は、【カーネルメモリダンプ】を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- ワークグループ環境の場合は、25 GB 以上の空き容量があるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GB を超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを【カーネルメモリダンプ】に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報（メモリダンプ）のサイズが変わります。デバッグ情報（メモリダンプ）の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

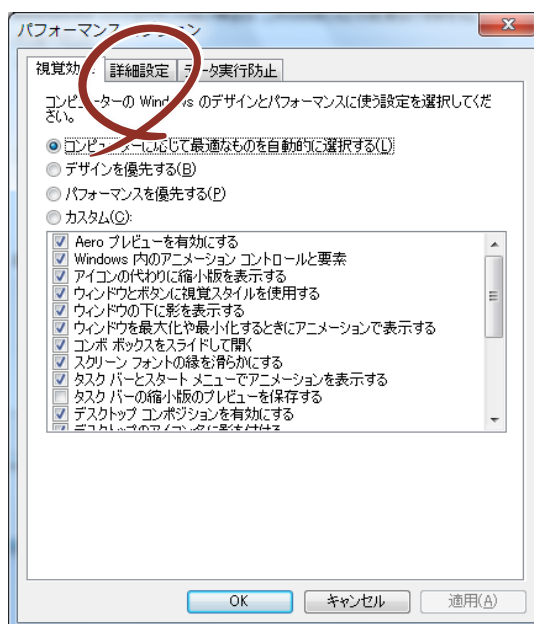
Windows 7 Professional 32-bit(x86) Edition の場合

- デバッグ情報の書き込みは【完全メモリダンプ】を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GB を超える場合は、【完全メモリダンプ】を指定することはできません（メニューに表示されません）。その場合は、【カーネルメモリダンプ】を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+300MB 以上（メモリサイズが2GB を超える場合は、2048MB+300MB 以上）の空き容量のあるドライブを指定してください。
- ワークグループ環境の場合は、25 GB 以上の空き容量があるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GB を超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを【カーネルメモリダンプ】に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報（メモリダンプ）のサイズが変わります。デバッグ情報（メモリダンプ）の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

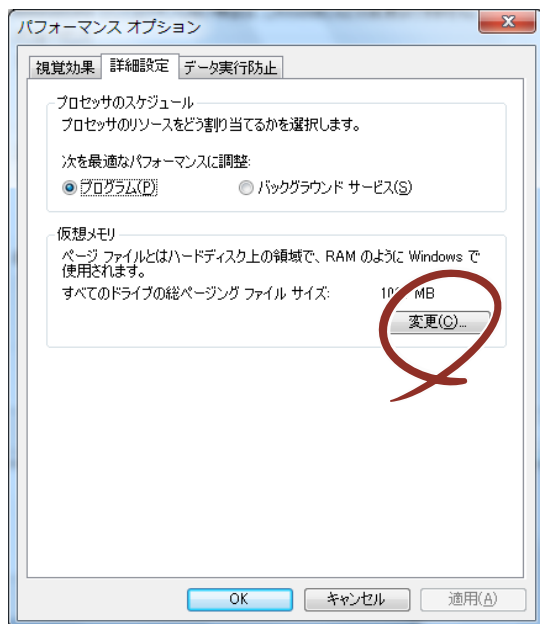
7. [パフォーマンス] ボックスの [設定] をクリックする。
[パフォーマンスオプション] ウィンドウが表示されます。



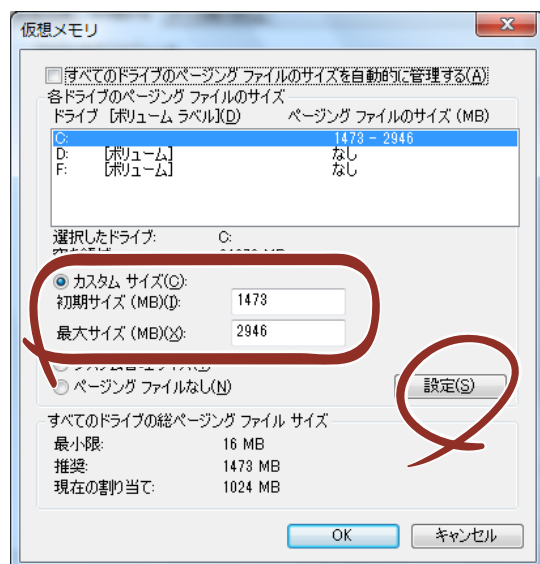
8. [パフォーマンスオプション] ウィンドウの [詳細設定] タブをクリックする。



9. [仮想メモリ] ボックスの [変更] をクリックする。



10. [すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する] のチェックボックスのチェックをはずし、[カスタムサイズ] にチェックをする。
11. [各ドライブのページングファイルのサイズ] ボックスの [初期サイズ] を [すべてのドライブの総ページングファイルサイズ] ボックスに記載されている推奨値以上に、[最大サイズ]を[初期サイズ]以上に変更し、[設定] をクリックする。





- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。Windows パーティションには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、インストレーションサブリメントガイドの「注意事項」の「システムパーティションのサイズについて」の項を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

12. [OK] をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

Windows XP Professionalの場合

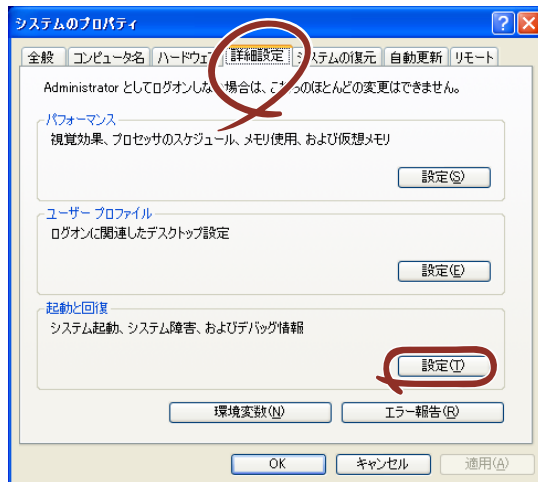
1. スタートメニューから [コントロールパネル] をクリックする。
[コントロールパネル] ウィンドウが表示されます。
2. [コントロールパネル] ウィンドウから [パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする。



クラシック表示にしている場合は、[コントロールパネル] から直接 [システム] をクリックしてください。

3. [システム] をクリックする。
[システムのプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
4. [詳細設定] タブをクリックする。

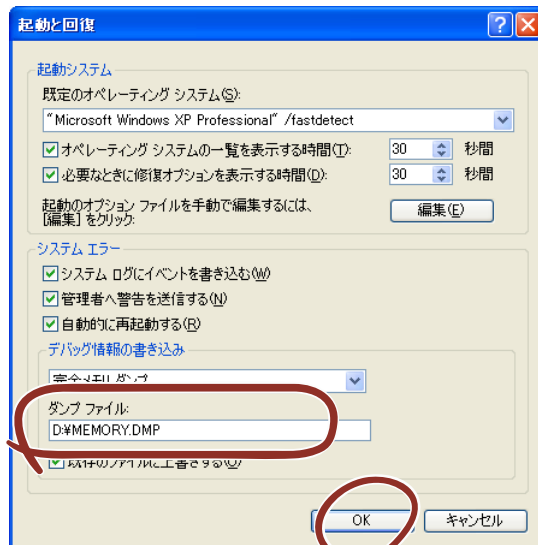
5. 「起動と回復」ボックスの「設定」をクリックする。



6. ダンプファイルのテキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK]をクリックする。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

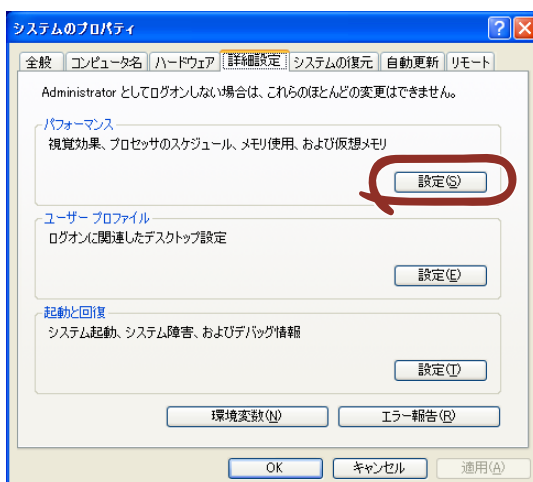




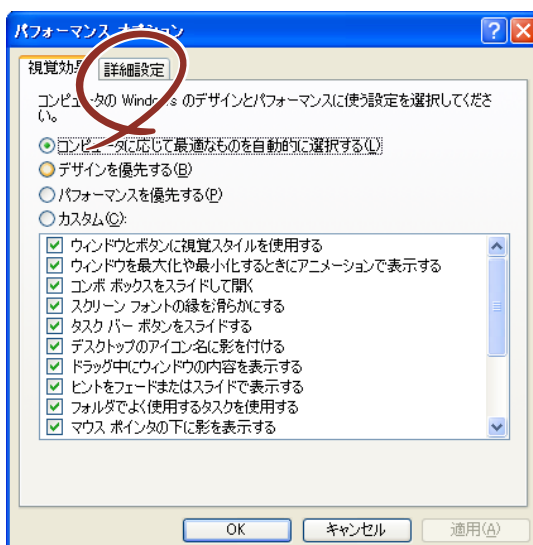
- デバッグ情報の書き込みは「完全メモリダンプ」を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、「完全メモリダンプ」を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、「カーネルメモリダンプ」を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを「カーネルメモリダンプ」に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

7. 「パフォーマンス」ボックスの「設定」をクリックする。

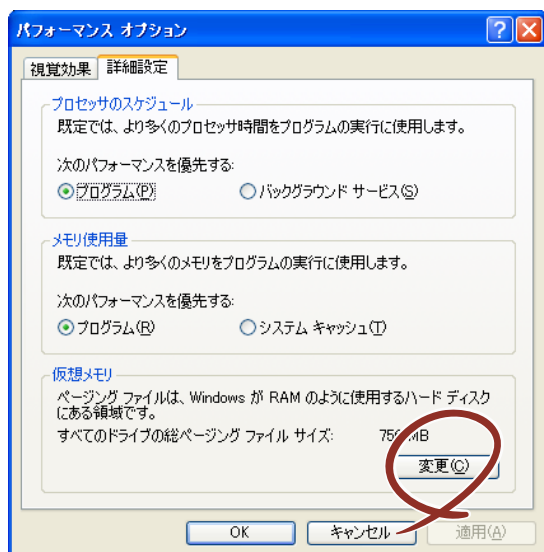
「パフォーマンスオプション」ウィンドウが表示されます。



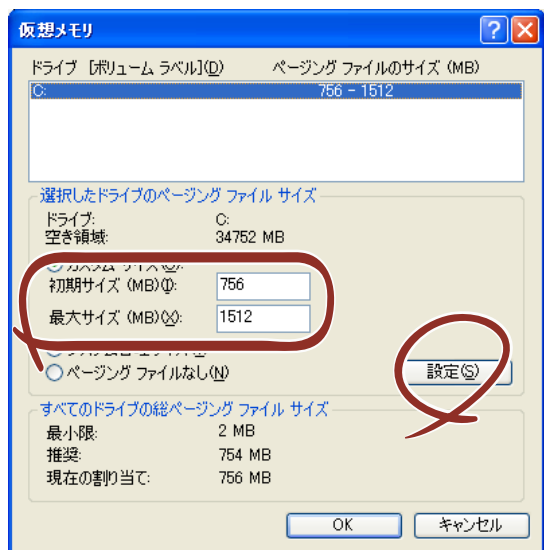
8. 「パフォーマンスオプション」ウィンドウの「詳細設定」タブをクリックする。



9. 「仮想メモリ」ボックスの「変更」をクリックする。



10. 「選択したドライブのページングファイルサイズ」ボックスの「初期サイズ」を[すべてのドライブの総ページングファイルサイズ]ボックスに記載されている推奨値以上に変更し、「設定」をクリックする。



- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、インストールサプリメントガイドの「注意事項」の「システムパーティションのサイズについて」の項を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

11. [OK] をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ユーザーモードプロセスダンプの取得方法

ユーザーモードプロセスダンプは、アプリケーションエラー発生時の情報を記録したファイルです。

アプリケーションエラーが発生した際は、エラーが発生した旨を伝えるポップアップを終了せずに、以下の方法にてユーザーモードプロセスダンプを取得してください。

● Windows 7 Professional の場合

1. タスクバー上の空いている場所を右クリックして [タスクマネージャ] をクリックするか、<Ctrl> + <Shift> + <Esc> キーを押下して [タスクマネージャ] を起動する。
2. [プロセス] タブをクリックする。
3. ダンプを取得するプロセス名を右クリックし、[ダンプ ファイルの作成] をクリックする。
4. 次のフォルダにダンプファイルが作成されます。

C:¥Users¥ (ユーザー名) ¥AppData¥Local¥Temp



上記のフォルダは隠し属性となっている場合があります。フォルダが表示されない場合は、エクスプローラの [整理] から [フォルダーと検索のオプション] を選択し、[表示] タブから [隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する] にチェックをしてください。

ユーザーモードプロセスダンプが作成されたら、上記4.のフォルダより取得してください。

● Windows XP Professional の場合（ワトソン博士の設定）

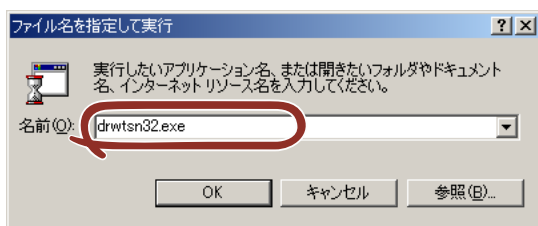
ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報（ログ）を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。



ワトソン博士の設定は、購入時および再セットアップ時に自動的に設定されています。

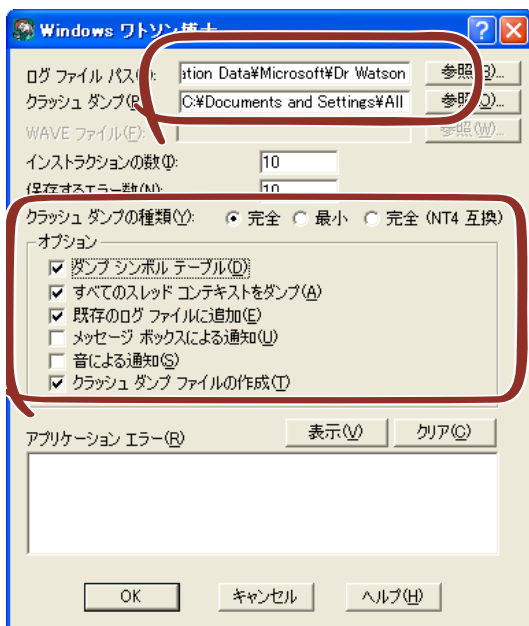
1. スタートメニューの【ファイル名を指定して実行】をクリックする。
2. 【名前】ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、【OK】をクリックする。

ワトソン博士のダイアログボックスが表示されます。



3. 【ログファイルパス】ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ] ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [クラッシュダンプの種類] のラジオボタンで[完全]を選択する。
6. [オプション] ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
- － ダンプシンボルテーブル
 - － すべてのスレッドコンテキストをダンプ
 - － 既存のログファイルに追加
 - － クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

7. [OK] をクリックする。

7 管理ユーティリティのインストール

添付の「EXPRESSBUILDER」DVDには、本体監視用の「ESMPRO/ServerAgent」および本体管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリティは、「EXPRESSBUILDER」DVDからインストールすることができます。
詳細については、第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。



再セットアップを行ったときは、これらのユーティリティを個別にインストールしてください。



ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

8 システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。システム情報のバックアップがあると、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧（リストア）することができます。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. オプションのFlash FDDまたは、USB FDDをお持ちの方はUSB FDDをUSBコネクタに接続する。
2. 「EXPRESSBUILDER」DVDを本体装置の光ディスクドライブにセットして、再起動する。

EXPRESSBUILDERから起動して「Boot selectionメニュー」が表示されます。

3. [Tool menu]を選択する。
4. 「TOOL MENU」の[Maintenance Utility]を選択する。
5. [システム情報の管理] から [退避] を選択する。

以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。



チェック

オフライン保守ユーティリティではフロッピーディスクを使用した説明がメッセージに表示されますが本製品はフロッピーディスクドライブを内蔵していません。オプションのFlash FDDを使用するか、USB FDDをお持ちの方はUSB FDDを使用してください。

再セットアップ

ここでは、各OSを再セットアップする方法について説明します。

再セットアップ可能なOSについて

再セットアップできるオペレーティングシステムは、それまで使用していたオペレーティングシステムです。前回と異なるオペレーティングシステムをインストールするには、別途オペレーティングシステムを購入してください。



Windows 7 32-bit (x86) EditionとWindows 7 64-bit(x64) Edition はライセンスが共通のため、Windows 7 64-bit(x64) Edition からWindows 7 32-bit (x86) Editionに変更する場合、もしくはWindows 7 32-bit (x86) EditionからWindows 7 64-bit(x64) Editionに変更する場合は別途オペレーティングシステムを購入する必要はありません。

再セットアップ方法



本装置では、シームレスセットアップはサポートされていません。

<Windows 7 Professionalの場合>

- マニュアルセットアップ

Windows 7の再セットアップは「マニュアルセットアップ」を使用します。マニュアルセットアップの詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Windows 7 Professionalインストールサブリメントガイド」で説明しています。

<Windows XP Professionalの場合>

- マニュアルセットアップ

Windows XPの再セットアップは「マニュアルセットアップ」を使用します。マニュアルセットアップの詳細は、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Windows XP Professionalインストールサブリメントガイド」で説明しています。

応用セットアップ

システムの環境やインストールしようとするオペレーティングシステムによっては、特殊な手順でセットアップしなければならない場合があります。

マニュアルセットアップ

● Windows7 Professionalの場合

オペレーティングシステムのインストールは、マニュアルセットアップを使用します。マニュアルセットアップでWindows 7をインストールする方法については、EXPRESSBUILDERに格納されているオンラインドキュメント「Windows 7 Professionalインストールサブリメントガイド」を参照してください。また、オンボードのRAIDコントローラ(LSI Embedded MegaRAID™)を使用する場合は、必要に応じてあらかじめEXPRESSBUILDERから「OEM-Disk」を作成しておいてください。

● Windows XP Professionalの場合

オペレーティングシステムのインストールは、マニュアルセットアップを使用します。マニュアルセットアップでWindows XP をインストールする方法については、EXPRESSBUILDER に格納されているオンラインドキュメント「Windows XP Professionalインストールサブリメントガイド」を参照してください。また、必要に応じてあらかじめEXPRESSBUILDERから、「OEM-Disk」を作成しておいてください。



OEM-Diskとは？

「マニュアルセットアップ」では「OEM-Disk」が必要です。OEM-Diskには、各OSごとに必要となるRAIDコントローラやSCSIコントローラのドライバなどが含まれています。

マニュアルセットアップをはじめる前に、各OSのインストールサブリメントガイドを参照し、OEM-Diskを作成してください。

<OEM-Disk 名称>

- Windows 7 64-bit(x64) Edition の場合：
「Windows 7 x64 OEM-Disk for EXPRESSBUILDER」
- Windows 7 32-bit(x86) Edition の場合：
「Windows 7 OEM-Disk for EXPRESSBUILDER」
- Windows XP の場合：
「Windows XP OEM-Disk for EXPRESSBUILDER」



オプションボードを接続する場合は、オプションボードに添付の説明書も併せて参照してください。

論理ドライブが複数存在する場合の再セットアップ手順

再セットアップをはじめる前に、万一の場合に備えて必ずデータのバックアップを行ってください。

再セットアップ手順

1. 本書および「インストレーションサブリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを開始する。
2. 次のメッセージが表示されたら、OSをセットアップしたいパーティションを選択する。

<Windows 7 Professionalの場合>

Windows のインストール場所を選択してください。

<Windows XP Professionalの場合>

次の一覧には、このコンピュータ上の既存のパーティションと未使用の領域が表示されています。

上下の方向キーを使って、一覧からパーティションを選択してください。



システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字はセットアップ完了後は修正できません。この画面で正しいドライブ文字が割り当てられていることを確認してからセットアップを続行してください。

3. 本書および「インストレーションサブリメントガイド」の手順に従ってマニュアルセットアップを続行する。

以上で完了です。



セットアップ完了後、再セットアップ前とドライブ文字が異なる場合があります。ドライブ文字の修正が必要な場合は次項の「ドライブ文字の修正手順」に従ってドライブ文字を変更してください。

ドライブ文字の修正手順

以下の手順では、システムボリューム、またはブートボリュームのドライブ文字は変更できません。ご注意ください。

<Windows 7 Professionalの場合>

1. スタートメニューから[コンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択して[コンピュータの管理]を起動する。
2. 左側のウィンドウの中から、[記憶域] - [ディスクの管理]を選択する。
3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックし、[ドライブ文字とパスの変更]を選択する。
4. [変更]をクリックする。

5. [次のドライブ文字を割り当てる]をクリックし、割り当てたいドライブ文字を選択する。
6. [OK]をクリックする。
7. 以下の確認メッセージが表示されたら、[はい]をクリックする。

ドライブ文字に依存する一部のプログラムが正しく動作しなくなる場合があります。続行しますか？

8. [コンピュータの管理]を終了する。

以上で完了です。

<Windows XP Professionalの場合>

1. スタートメニューから[マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択して[コンピュータの管理]を起動する。
2. 左側のウィンドウの中から、[ディスクの管理]を選択する。
3. ドライブ文字を変更したいボリュームを選択して右クリックし、[ドライブ文字とパスの変更]を選択する。
4. [変更]をクリックする。
5. [次のドライブ文字を割り当てる]をクリックし、割り当てたいドライブ文字を選択する。
6. [OK]をクリックする。
7. 以下の確認メッセージが表示されたら、[はい]をクリックする。

ボリュームのドライブ文字を変更すると、プログラムが動作しないことがあります。このドライブ文字を変更しますか？

8. [コンピュータの管理]を終了する。

以上で完了です。

